

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営方針の中にも、地域密着の理念を挙げ、ホームページや、地域の交流会などで、外部への発信も行っている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の話し合いや、会議の中にも、理念について話す機会が多い。また、理念実践に向けて、地域の学校と交流ををったり、地域の交流会に参加したりと、さまざまな活動を行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>「ほほえみのつどい」という、職員・家族・地域の人々・他の福祉関係従事者が集まり、意見交換する場を定期的に設けている。その都度、理念の説明をしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方々とは、散歩の際など、日常の挨拶はもちろん、年末年始などの挨拶も行っている。また、入居者が作った菓子・庭で採れた野菜などを配り、交流をはかっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会には加入し、地域の神社で催される行事などに参加している。地域で行われる清掃活動にも参加し、地域との交流をはかっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価・第三者評価の結果、改善すべき点を明確にし、検討し、随時改善に取り組んでいる。	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	1月に1回の運営推進会議では、家族・地域の方々・福祉関係者・それぞれが意見を出しやすい雰囲気作りを心がけ、そこで出された意見は記録し、職員会議などでも検討する。	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営者が、市が主催する福祉・介護に関する研修の講師をしており、頻繁に連絡をとり、サービスの質の向上に努めている。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	他の事業者が、弁護士を招いて開いた成年後見人制度についての講習会に出席し、学ぶ機会を作った。入居者の中で、成年後見人制度利用を検討した方には家庭裁判所・医師等との連絡も積極的にとるよう努めた。	地域福祉権利擁護事業については、職員の知識・認識もあまりない。もう少し、制度の理解を深めるために、研修の参加などを促していきたいと思う。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	グループホーム内の研修で「高齢者の尊厳重視」などのテーマで話し合っている。	漠然とした取り組みしかできていないので、今後、高齢者虐待防止関連法などについての勉強の機会を作り、虐待防止に関するマニュアル作りなどに取り組みたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約の際は、個別に十分な説明と、話し合いができるように、心がけている。支援出来ることがあれば、積極的に行うように努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者が、職員に意見・不満を伝えやすい雰囲気作りに努めている。運営者にも直接話ができる。また、家族会・電話などで、入居者が家族と自由に話ができるように配慮している。ホーム内の目につきやすい場所に、相談箱も設置している。</p>	<p>意思表示の難しい入居者には、もう少し働きかけ、意見・不満が表せるようにしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回の家族会で、家族と個別に話をする機会をもうけている。また、それ以外にも、毎月末に記録・小口現金出納帳の写し、グループホーム新聞などを家族に郵送し、必要に応じて、電話での状況報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会・「ほほえみのつどい」などで、家族が意見や要望を出す場をもうけている。その意見を検討し、反映出来るように努めている。</p>	<p>家族会は、設立当初から開催しているが、「ほほえみのつどい」は開催後、まだ3ヶ月しか経過していない、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者・管理者は、現場職員と接する機会も多く、話もよくできている。</p>	<p>全ての職員の意見が汲み上げられているとは言い難い。今後、全体会議などでも意見を出しやすい雰囲気を作っていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活リズム・要望に合わせた勤務体制作りに努めている。</p>	<p>勤務状況の振り返りや、調整をし、不備がないように取り組んでいきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の健康状態・精神状態を把握するように努めている。やむを得ず、異動する場合も、新旧職員の申し送りを徹底し、異動後も入居者と交流がはかれる機会を作っている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人のレベルに合わせた研修への参加を促している。また、希望する研修には、可能な限り、参加できるように配慮している。		パート職員も、気軽に参加できる、法人内の研修をもう少し増やしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設からの研修の受け入れや、他施設への研修などに参加している。		学会メンバーとの交流などで、客観性あるデータを収集し、それを生かしながら取り組んで行きたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他事業所との交流や、親睦の場をもうけている。また、休憩室の利用により、気分転換をはかっている。希望休もできるだけ聞き入れている。		福利厚生面での充実をはかるよう努力したい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの段階に応じた研修を受講し、会議などの場で内容を伝えている。また、資格手当を設け、努力や実績を評価する給与査定をおこなっている。		向上心をもてるように、環境作りに努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面談より、本人の希望を聴き取り、また、本人の聴き取り困難な場合は、家族・ケアマネジャーより情報を得ている。</p>	<p>その人をよく知ることの大切さを、周囲の方に伝え、今までの関わりのある方や、家族から、より鮮明な情報を得るように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の不安や、精神状態などを傾聴し、その背景を理解しながら取り組んでいる。</p>	<p>今後とも継続して行きたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族が、今何をしたいのか見極め、できる限りの対応をし、また、情報提供にも努めている。</p>	<p>他のサービスの情報収集に努めるためにも、地域とのネットワークを今後とも広げていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者の状況を見ながら対応を行っている。ときには、デイサービスや、ショートステイを利用することにより、馴染めるようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>過去の生活歴より、得意な分野を見つけ、生活に取り入れて、支え合う関係作りに努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりを、より知る努力をし、入居者との関係を深めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族が気がかりなことや、意見・希望を職員に気軽に伝えたり、相談したりできるように、訪問時の声かけ、定期的な連絡を積極的に行っている。		毎月の新聞発行や、介護教室などを、定期的に開催し、家族・地域住民に参加してもらうためにも、内容の充実をはかっていきたい。
29	利用者との関係のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が、ホームの活動に参加できるように、機会や場面を作っている。また、センター方式のシートを使って、関係の理解に努めている。		他のシートも活用していき、情報収集を幅広く行い、入居者のより深い理解に努めたい。また、毎月の家族を交えた食事会や、季節の変わり目の衣替えなど、今後も継続していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・近隣の方の訪問があり、入居者によっては、知人が来訪され、ゆっくり過ごしていただいている。また、入居者が、以前住んでいた所へ年に1回旅行に行ったり、手作りの物を地域や、以前、交流のあった、地域包括支援センターに配ったりと、関係が途切れないよう、取り組んでいる。		今後も、家族・近隣住民・知人などと、関係が途切れないように配慮していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームの庭に畑や、花壇を作り、野菜の収穫や、草花の世話をしたり、また、日常的に食事作り、洗濯物干しなど、役割を分担しながら生活している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した場合、新しく入居した入居先のケアマネージャーをとおし、意見交換をはかり、関係を断ち切らないよう取り組んでいる。また、退去について、在宅生活の方向へもっていくケースがあり、コレクティブハウスなどの案内も行ない、情報を提供している。		現状では、そのようなケースが少ないため、今後を想定して対応を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>散歩、買い物など、入居者の希望も聞き、行なっている。困難な場合でも、職員間で話し合ったり、家族と相談しながら、なるべく本人の気持ちに、そつよう取り組んでいる。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>馴染みの暮らしができるよう、本人、家族から生活歴を教えてもらい、センター方式シートで知り得た情報を共有したり、過去の記録を見たりして、把握に努めている。また、居室には馴染みの物(本人の私物)を置き、生活環境の変化を少なくしている。</p>	<p>今後、入居者を良く知るために、ICFシートの活用を検討している。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>服薬や食事摂取量などのチェックシートをつけ、それをもとに、職員間で話し合いを行ない、過去と現在の状況を見比べ、生活の支援をおこなっている。</p>	<p>職員間で情報交換を行なっているが、まだ把握できていない部分もある。そのようなことも踏まえ、総合的に把握できるように、徹底していきたい。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>できている点、できていない点などを、職員間でも話し合い、入居者、家族の意向も考慮し、介護計画を作成し、支援を行なっている。また、作成した介護計画は、家族の同意を得ている。</p>	<p>介護計画に対する入居者の同意も得ていきたい。家族にも介護に関する知識や専門性をもってもらい、意見を出し合い、より良い計画にしていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者、家族の状況は日々、変化している。家族とは、交流の場で常に話し合い、月1回の介護計画会議では家族、入居者と話したことをもとに介護計画の見直しを行なっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		<p>今後、ますます地域との関係を大事にしていき、認知症への理解をしてもらえるよう、さらに努力していきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>一部の職員だけでなく、全ての職員が主治医と情報交換を密にし、良好な関係を築いていきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>今後の方針として、終末期ケアについても職員の考えと、家族の考えにズレが生じないように、方針を統一していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>看取りや、ターミナルケアといった終末期ケアの話し合いは行なっているが、今後、地域及び事業所の環境が整えば、前向きに取り組んでいきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>症例が少ないが、今後は移り住む事も想定した話し合いをもっとにしていきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・入居者一人ひとりに、尊厳に配慮したコミュニケーションを心がけて行なっている。</p> <p>・入居時に、入居者及び家族等に「個人情報の取り扱いに関する同意書」を説明し、書面にて同意を得ている。また、職員も入社・退職時に「個人情報保護についての誓約書」も書面にて交わすことを義務付けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者と密に関わっていく事で、その入居者が何を望んでいるのかを理解していくように努め、入居者が自己決定できる環境を提供し、支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活ペースに合わせて、今までの生活環境や、介護計画にそって、その人らしい暮らしができるように、支援を行なっている。</p>	<p>介護計画の内容が、その人にとって、本当にその人らしさが出ているかどうかを、今後、さらに考えていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容・美容は、入居者、家族の希望にそって、利用支援を行なっている。髪形については、入居者の希望を尊重している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・メインの献立にも、入居者の意見を組み入れていきたい。 ・健康に配慮した料理を提供していきたい。 ・旬の食材や、新鮮な食材を取り入れ、入居者と職員が、同じ食卓で、同じものを楽しく食べる基本姿勢を継続していきたい。
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>掃除、洗濯、料理、買い物、畑作りなど、個々に合った役割、楽しみを職員と共に行なっている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・数名は個人で財布を所持・管理している。 ・ホームがお金を管理している方でも、買い物時は財布を渡し、お金を支払ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	宗教施設や馴染みの地域に定期的に出向いている。		今後も継続して行なっていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望する場所や、馴染みのある土地（故郷など）に出かけることが多い。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・玄関は鍵がかけられておらず、また、訪問時間の取り決めはない。 ・家族が来訪した時にも、各人が馴染みの家具を置いているので、落ち着いた雰囲気を作り出し、長時間、一緒に過ごすこともある。また、家族と一緒に泊まる事もある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊する入居者がおらず、玄関は常に鍵をかけていない状態にしている。また、そのような対象者がいても、身体拘束をしない介護を行っていく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・戸の開閉は、チャイムが鳴るようにしており、常に玄関の鍵は開けている。 ・居室に関しては、施錠を希望する入居者には鍵を渡している。また、緊急時には、すぐにドアが開けられるように、合鍵を作って保管している。		鍵をかけないケアの意味を、今後、さらに職員全員に周知させていきたい。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・玄関と2階廊下にセンサーを設置し、夜間に関しては、チャイムが鳴る事で、入居者の様子の把握を行なっている。 ・食事作り時や配茶時などに、声かけを行ない、所在や様子を把握している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の納得のもとで、ホームが管理することを、了承してもらい、必要があった時には出すようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防士、看護師からの指導を受けている。また、緊急時のマニュアルを掲示している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に研修を行っており、各自が対応できるように、取り組んでいる。		新人社員及び、経験の浅い人には、定期的な研修を行なっている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の指導のもと、避難訓練を行なっている。地域でのボランティア活動をしたり、自治会に参加したりなどすることで、地域とのつながりももっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>入居者のちょっとした変化であっても気づけるように、普段からの意識づくりを徹底していきたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	共有スペースなどの消毒・清掃を毎日行っている。行政からの緊急指導に対しても、速やかな対応を行っている。		感染症に関する研修を行い、知識を深めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の洗浄・漂白・消毒を欠かさず行っている。 国産など、新鮮な食材の購入を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者と共に、玄関や玄関先の清掃を行ない、また、入居者の趣味を生かして、園芸や生け花をすることで、親しみやすい環境を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には観葉植物、玄関先には生け花を飾り、ソファを置くなどして、家庭的な環境作りを心がけている。また、台所周りは、多くの入居者が料理作りにも携わっていただける環境になっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は、入居者同士の相性を考慮したものにしており、また、玄関先などにソファを置くことで、入居者同士のコミュニケーションの場をつくっている。この他にも新聞や雑誌を設置することで、独りでゆっくりと過ごす時間がもてるよう、配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるように工夫をしている	家具や仏壇など、入居者本人に馴染みのあるものを使用してもらうなど、居心地の良い環境作りを心がけている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に、居室の環境整備を行っており、入居者の状態に応じた働きかけを行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能に応じた手すりの設置などを行っている。また、過剰なバリアフリー化をすすめるのではなく、適度な段差を残すなどして、現存する身体能力を維持するために配慮した環境作りをしている。		今後、低下していくであろう個々の身体機能に応じて、臨機応変にハード面での整備をしていきたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりの、わかる力に応じた役割を担ってもらっている。また、ピアノや仏壇など、馴染みのものを置くことで、混乱の防止を図っている。		一人ひとりのわかる力をより理解し、環境面などでの配慮を心がけたい。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周り、中庭やベランダのスペースを利用した、活動ができるようにしている。	庭に入居者の選んだ花を植えたり、畑を作って野菜を育て、朝・夕の水やり、野菜の収穫に取り組んでもらっている。また、立地条件を活かした散歩などの活動も行っている。		広いテラスにプランターを設置するなど、今後、さらに検討していきたい。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・故郷やなじみのある場所への旅行を毎年一回行なっている。
- ・在宅支援への考えも選択肢の中に入れ、日々の支援を行なっている。
- ・地域への認知症の理解への啓発を幅広い世代に対して行なっている。
- ・なじみの環境や、なじみの関係作りの中で、その人らしい生活支援を行なっている。
- ・入居者の入れ替わりが少ない。
- ・立地条件を生かした外出支援を行なっている。
- ・利用者主体のボランティア活動を行なっている。